

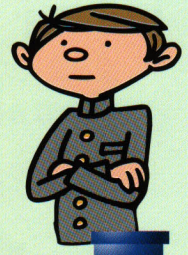
## 5

## 鎌倉～南北朝時代



▲荒井猫田遺跡の現場 説明風景

ずいぶん大きな穴ですね。いったい何ですか。見学している中学生も熱心に説明を聞いていますね。うしろに見えるのはビックパレットだから、安積町あたりですか。博士教えてください。



はい、これは安積町にある荒井猫田遺跡だよ。穴の跡は、柱跡、井戸跡などだよ。



▲荒井猫田遺跡全景

荒井猫田遺跡の発見により、鎌倉～南北朝時代の郡山の様子がいろいろとわかってきました。どんなことがわかってきたか探ってみよう。

荒井猫田遺跡は、中世（鎌倉～南北朝）にかけての遺跡で、道跡・木戸跡・建物跡・館跡など、中世の遺構がみつかりました。中でも木戸跡は全国でも初めて発見されました。木戸とは町や館に出入りする人をチェックする施設です。

当時この付近には南北150m、東西70m以上の規模の町があったと考えられています。

遺跡の周辺には、阿武隈川や笹原川が流れていて、当時の水上交通の拠点であった可能性も考えられます。

全国で町跡が発見された中世の遺跡は、広島県の草戸千軒町遺跡、青森県の十三湊遺跡が有名です。内陸部でこれらに匹敵する遺跡が発見されたのは、荒井猫田遺跡が全国でも初めてのことです。



▲荒井猫田遺跡木戸跡



▲広島県立歴史博物館